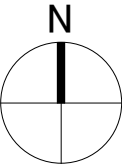


1948年（昭和23年）



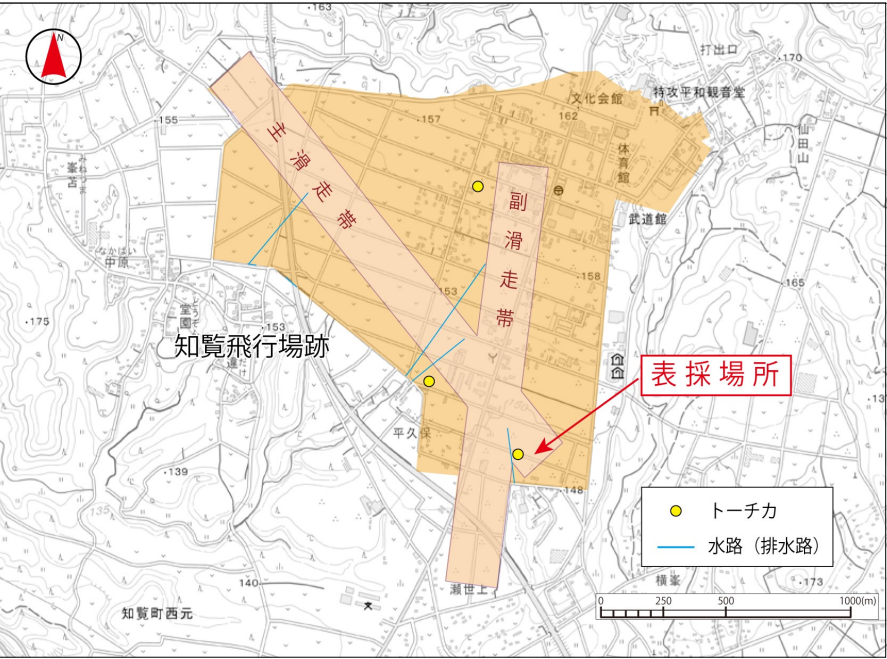
- ①知覧飛行場の名残として、かつての敷地の形状の面影が残る。滑走路の跡は顕著には見られない。
- ②田畑は完全には復興しておらず、民家等の建物も敷地周辺には見られない。
- ③木佐貫原（飛行場台地）周辺の南西部や北東部の基地周辺には民家がみられる。

【農地の区画整理】
昭和22年から24年頃にかけて、耕作者に売り渡しが行われた。売り渡し時に区画整理されたと推測される。

【飛行場台地の変遷】
軍による買収 → 飛行場建設 → 終戦 → GHQ → 返還 → 知覧町へ払下げ → 耕作者へ売り渡し

- 滑走路跡
- 新庁舎建設予定敷地（現 知覧農業振興センター）

知覧飛行場跡



出典：知覧飛行場跡の飛行場用地で確認された表採遺物について

1965年（昭和40年）

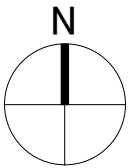


- ①現在の穎娃川辺線の道路が整備され、建設予定敷地（現知覧農業振興センター）内に小さく区画された農地がみられ、木佐貫原（飛行場台地）周辺では最初に関が行われている。
- ②知覧飛行場の形状の名残が一部の田畑の形状に見られるが、地域一帯は再び農地として整備されている。
- ③現在の知覧中心地域（写真右上方面）の町の範囲が拡大していることがわかる。木佐貫原（飛行場台地）周辺の集落にはあまり変化は見られない。

【作物の種類】
茶・たばこの作付が主であったと推測される。
知覧町郷土史より、飛行場建設に関し、軍から知覧町に対して、茶・煙草の反あたる生産額並びに生産費を調査することを求められていた。

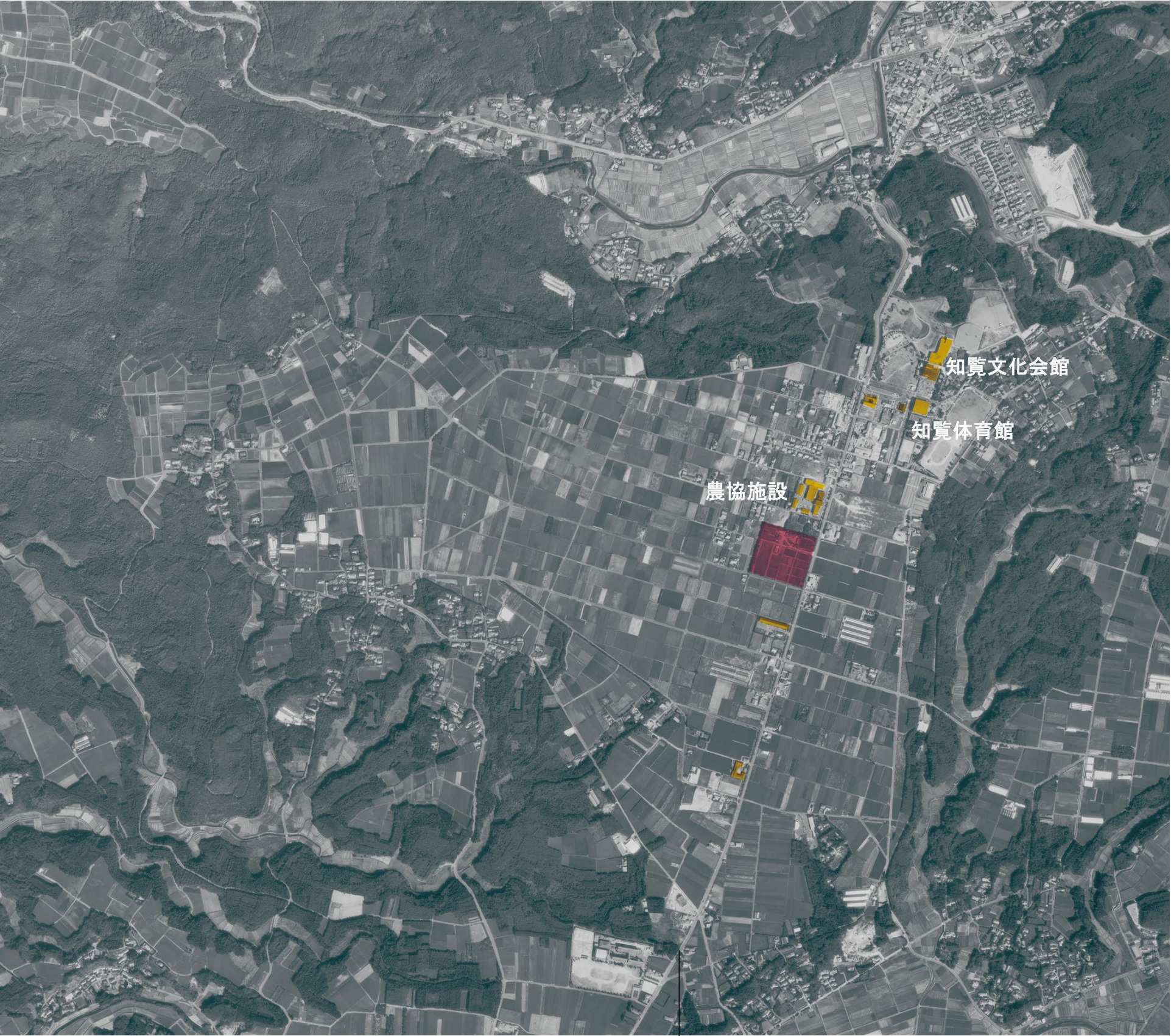
【農地所有者】
飛行場台地周辺の住民が主であると考えられる。

新庁舎建設予定敷地
（現 知覧農業振興センター）



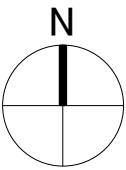
穎娃川辺線

1992年（平成4年）



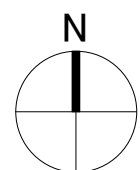
- ①知覧町中心部方面から颯娃川辺線にそって町が拡大している。
- ②現敷地北側の発展が顕著にみられ、現在の農協や知覧文化会館、知覧体育館などの公益性のある施設が新たに建てられている。また、それに付随する形で住宅などの小さな建築物が見られる。
- ③颯娃川辺線の道路から距離のある西部の農地の開発はあまり行われていない。
- ④木佐貫原（飛行場台地）西部や南部に位置する集落は大きく変化することなく、旧来の形態を維持している。

- 新庁舎建設予定敷地
（現 知覧農業振興センター）
- 2階～3階建の鉄骨造・RC造の建築物
（現在の地図から確認）



知覧川辺線

2020年（令和2年）

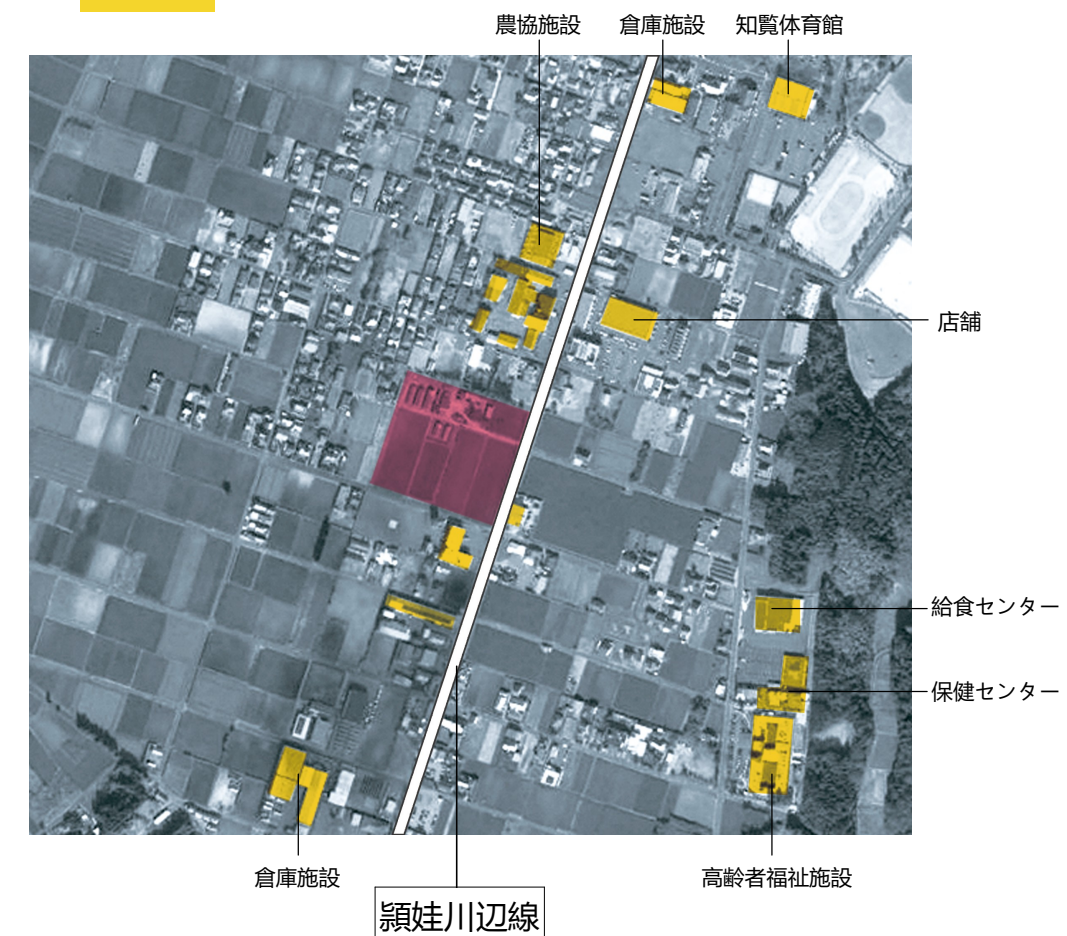


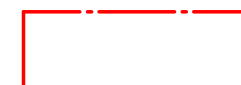
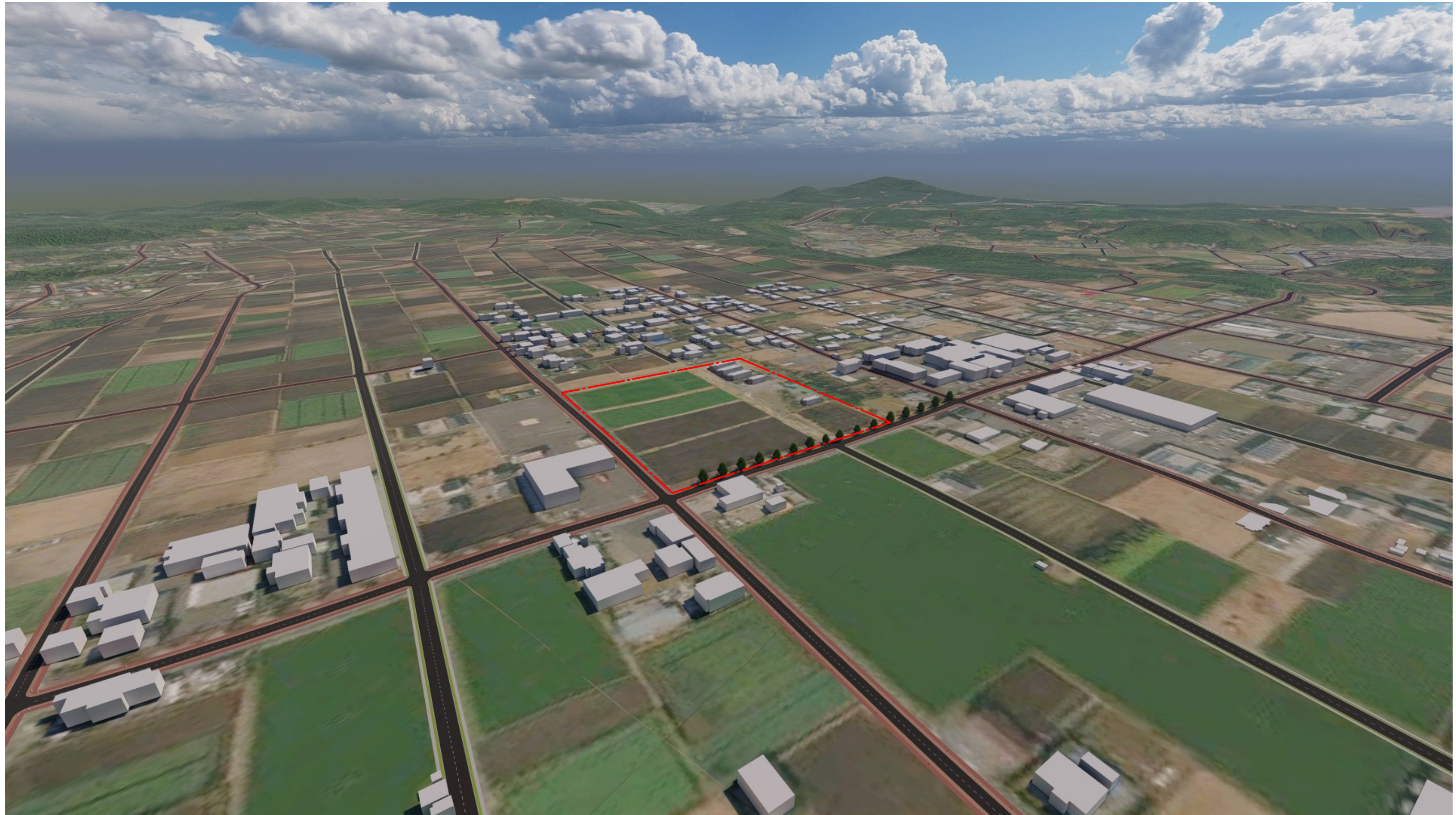
顚娃川辺線

南薩縦貫道

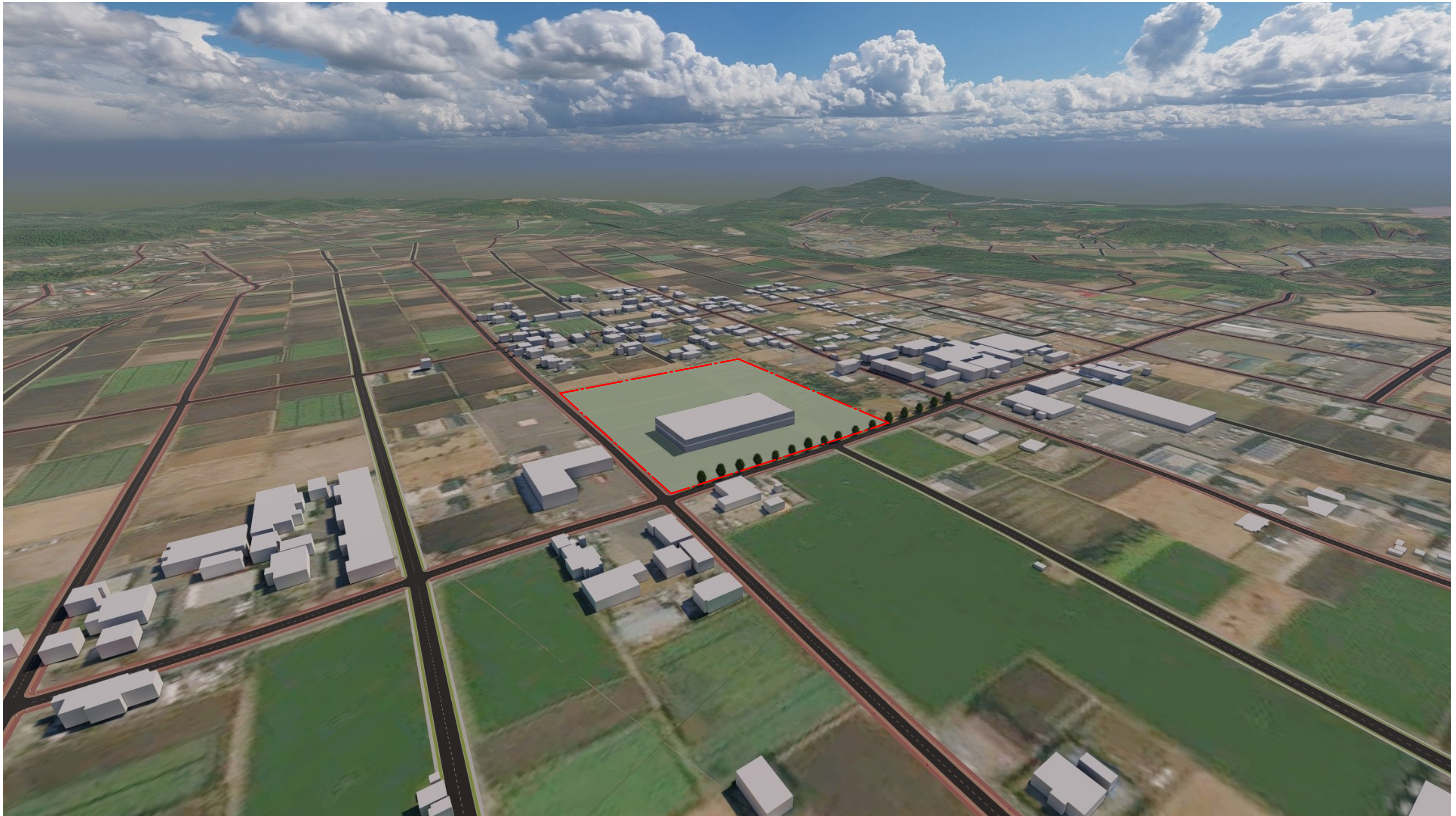
- ①建設予定敷地（現知覧農業振興センター）内に建物が複数建てられ、現状の状態となる。
- ②顚娃川辺線の近傍にさらに町が拡大し、工場やガソリンスタンド、大型の店舗などが出現している。新町地区の住宅新築が増えている様子も確認できる。
- ③南薩縦貫道が新しく整備され、木佐貫原（飛行場台地）北部から北西部にかけて宅地の開発が進んでいる。
- ④知覧特攻平和公園の周辺エリアは、景観計画（令和4年3月策定予定）における景観形成重点地区の候補地として2021年度から検討が始まっている。（ワークショップ等を開催予定）

- 景観形成重点地区候補地の検討区域
- 新庁舎建設予定敷地
（現 知覧農業振興センター）
- 2階～3階建の鉄骨造・RC造の建築物





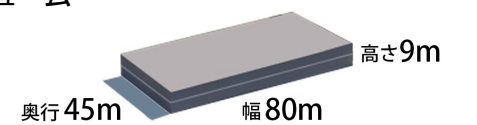
新庁舎建設予定敷地
(現 知覧農業振興センター)

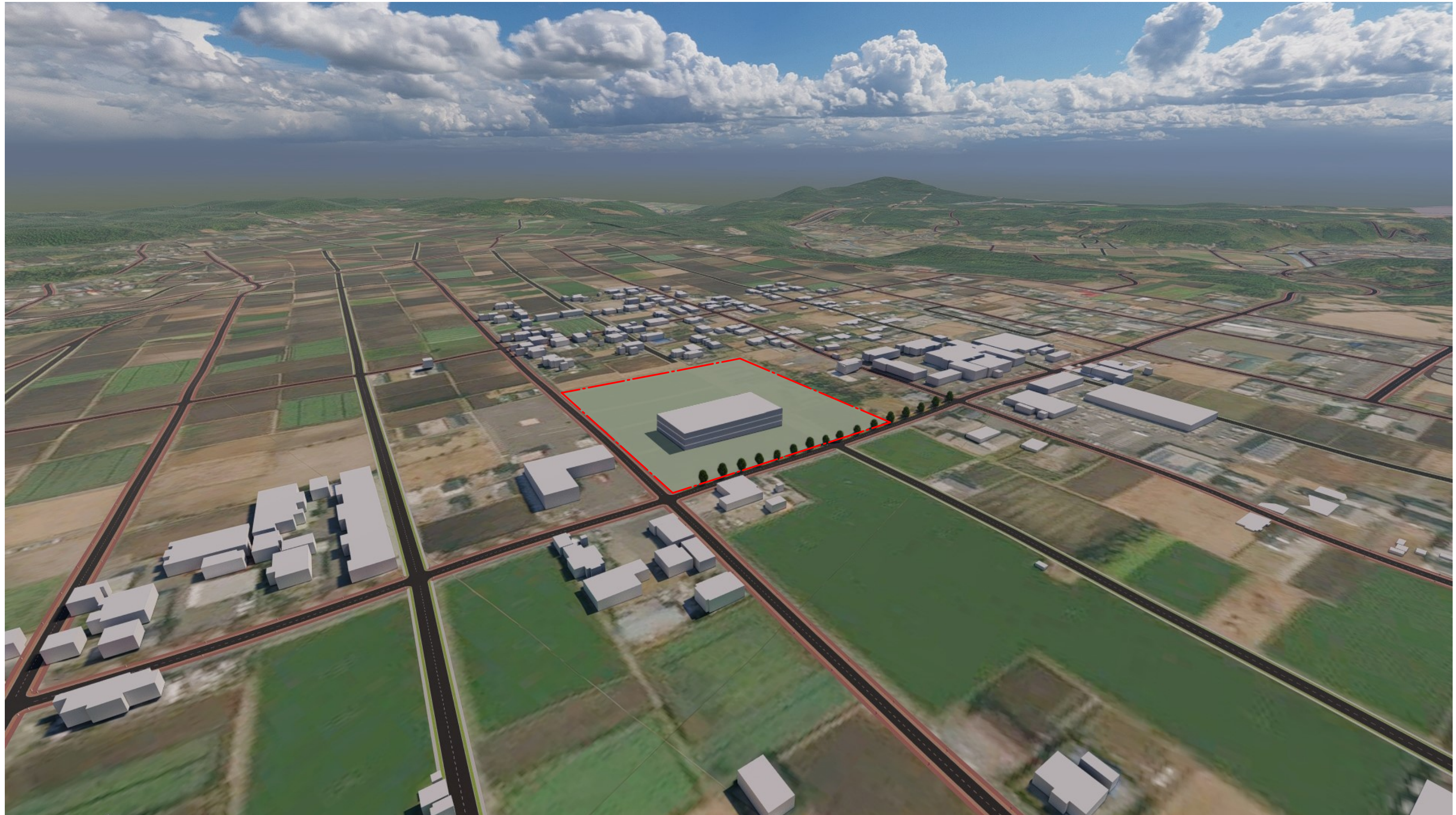


新庁舎建設予定敷地
(現 知覧農業振興センター)

2階建て想定ボリューム

幅: 約80m
奥行: 約45m
高さ: 約9m





新庁舎建設予定敷地
(現 知覧農業振興センター)

3階建て想定ボリューム

幅: 約75m
奥行: 約33m
高さ: 約13m

